

「プロモブチド農薬蜜蜂影響評価書（案）」についての
意見・情報の募集について

令和7年9月22日
農林水産省消費・安全局

この度、「プロモブチド農薬蜜蜂影響評価書（案）」について、広く国民の皆様から意見・情報を募集いたします。

今後、本案については、提出いただいた意見・情報を考慮した上で、決定することとしております。

記

1 意見公募の趣旨・目的・背景

農林水産大臣は、農薬取締法（昭和23年法律第82号）第39条第1項の規定に基づき、農薬の登録、変更の登録等について、農業資材審議会の意見を聴かなければならぬとされています。このうち、農薬の蜜蜂への影響評価に関する事項については、関連分野における高い知見を有する専門家で構成される農業資材審議会農薬分科会農薬蜜蜂影響評価部会で検討することとしています。

令和7年9月10日、第18回農業資材審議会農薬分科会農薬蜜蜂影響評価部会において、プロモブチドについて審議され、プロモブチド農薬蜜蜂影響評価書（案）が了承されました。

つきましては、本評価書案について、広く国民の皆様からの意見・情報を募集いたします。

2 意見公募の対象となる案及び関連資料の入手方法

(1) e-Gov (<https://www.e-gov.go.jp/>) の「パブリック・コメント」欄に掲載
(農林水産省ホームページにあるリンクからアクセスが可能)

(2) 農林水産省消費・安全局農産安全管理課農薬対策室において配布

3 意見・情報の提出方法

(1) e-Gov の意見入力フォームを使用する場合

「パブリック・コメント：意見募集中案件詳細画面」の「意見募集要領（提出先を含む）」を確認の上、意見入力へのボタンをクリックし、「パブリック・コメント：意見入力フォーム」より提出を行ってください。

(2) 郵送の場合

以下担当まで送付してください。

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
農林水産省消費・安全局農産安全管理課農薬対策室

4 意見・情報の提出上の注意

提出の意見・情報は、日本語に限ります。

頂いた御意見については、個人情報を除き全て公開される可能性があることをあらかじめ御承知おきください。ただし、御意見中に、個人に関する情報であって特定個人を識別し得る記述がある場合及び個人・法人等の財産等を侵害するおそれがあると判断される場合には、公表の際に当該箇所を伏せさせていただきます。

また、提出に当たっては、氏名及び住所（法人又は団体の場合は、名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）並びに連絡先（電話番号又は電子メールアドレス）を明記してください。御記入いただいた個人情報は、提出意見・情報の内容に不明な点があった場合等の連絡や確認等に利用するほか、当該意見・情報の内容に応じて、農林水産省内の関係部署、関係府省等に共有することがあります。

なお、電話での意見・情報はお受けしませんので御了承願います。また、頂いた御意見に対する個別の回答はいたしかねますので、その旨御了承願います。

5 意見・情報受付期間

令和7年9月22日～令和7年10月21日
(郵送の場合も締切日必着とします。)

6 公示資料

プロモブチド農薬蜜蜂影響評価書（案）

(案)

ブロモブチド
農薬蜜蜂影響評価書

2025年9月10日

農業資材審議会農薬分科会
農薬蜜蜂影響評価部会

目 次

<経緯>	2
<農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿>（第18回）	2
I. 評価対象農薬の概要	3
1. 有効成分の概要.....	3
2. 有効成分の物理的・化学的性状.....	4
3. 申請に係る情報.....	4
4. 作用機作.....	4
5. 登録状況.....	5
II. ミツバチに対する安全性に係る試験の概要	16
1. ミツバチに対する安全性に係る試験	16
2. ミツバチ個体への毒性（毒性指標）	17
III. 毒性指標.....	19
1. 毒性試験の結果概要.....	19
2. 毒性指標値.....	19
3. 毒性の強さから付される注意事項.....	19
IV. 暴露量の推計	19
V. 評価結果.....	20
評価資料	20
評価資料（公表文献）	20

<経緯>

令和 6 年 (2024年) 11月 18 日 農業資材審議会への諮問

令和 7 年 (2025年) 9月 10 日 農業資材審議会農薬蜜蜂影響評価部会
(第18回)

<農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿> (第 18 回)

(委員)	(臨時委員)	(専門委員)
五箇 公一	中村 純	永井 孝志
山本 幸洋		横井 智之

ブロモブチド

I. 評価対象農薬の概要

1. 有効成分の概要

1.1 申請者 住友化学株式会社

1.2 登録名 ブロモブチド

(RS)-2-ブロモ-N-(α , α -ジメチルエチル)-3,3-ジメチルブチルアミド

1.3 一般名 bromobutide (ISO名)

1.4 化学名

IUPAC名 : (RS)-2-bromo-3,3-dimethyl-N-(1-methyl-1-phenylethyl)butyramide

CAS名 : 2-bromo-3,3-dimethyl-N-(1-methyl-1-phenylethyl)butanamide

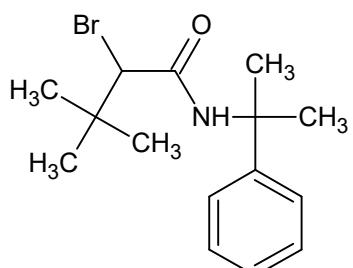
(CAS No. 74712-19-9)

1.5 コード番号 S-4347,S-47

1.6 分子式、構造式、分子量

分子式 C₁₅H₂₂BrNO

構造式



分子量 312.24

2. 有効成分の物理的・化学的性状

試験項目		純度 (%)	試験方法	試験結果
色調・形状		100	目視	白色・固体(結晶)
臭気		100	官能法	無臭
密度		99.7	OECD 109	1.33 g/cm ³ (25 °C)
蒸気圧		100	OECD 104	5.92×10 ⁻⁵ Pa (25 °C)
溶解度 有機溶媒	水	100	EPA CG-1500	3.54 mg/L (25 °C)
	アセトン	99.7	OECD 105	39 g/L (26 °C)
	ジメチルホルムアミド			171 g/L (26 °C)
解離定数 (pK _a)		100	OECD 112	解離せず
1-オクタノール／水分配係数 (log P _{ow})		100	OECD 107	3.46 (25 °C)
加水分解性		98.7	OECD 111	安定(25±2 °C、28~29 日間、pH 5、pH 7 及び pH 9)
水中光分解性		>99	EPA 161-2	半減期約13週 (蒸留水、温度不明、0.6~16.4 W/m ² 、300~400 nm)
試験項目		試験方法	試験結果	
土壤吸着係数		OECD 106	K ^{ads} Foc : 163~306 (4種類の国内土壤)	
土壤残留性		記載なし	粒剤、水田土壤(2種類) : 半減期21.0~50.4日 (土壤の深さ記載なし、減衰曲線による推定値)	

3. 申請に係る情報

ブロモブチドは、2023年10月現在、韓国で登録されている。

4. 作用機作

ブロモブチドは雑草の発芽は阻害しないが、発芽した雑草の根部及び幼芽部から吸収され、雑草の根部又は茎葉部の伸長を阻害する。ブロモブチドは、ソラマメ根端を使用した実験で細胞分裂を強く阻害することから、主な作用は植物の細胞分裂を阻害することにより雑草の生育を抑え、その結果、雑草を枯死させるものと考えられている。

(HRAC分類 : 30*)

※参照 : <https://www.hracglobal.com/>

5. 登録状況

5.1 申請農薬

134製剤

- ・アグロスシーゼットフロアブル
(ピリブチカルブ5.7%・プロモブチド10.0%・ベンゾフェナップ
12.0%水和剤)
- ・スマクリート粒剤
(ブタミホス3.5%・プロモブチド3.0%粒剤)
- ・ショキニーフロアブル
(プロモブチド18.0%・ペントキサゾン4.0%水和剤)
- ・ナイスショットジャンボ
(カフェンストロール4.2%・ピラゾレート18.0%・プロモブチド
18.0%粒剤)
- ・トップガンフロアブル
(ピリミノバックメチル0.83%・プロモブチド17.0%・ベンスルフロ
ンメチル1.3%・ペントキサゾン2.8%水和剤)
- ・トップガンLフロアブル
(ピリミノバックメチル0.56%・プロモブチド17.0%・ベンスルフロ
ンメチル0.93%・ペントキサゾン2.8%水和剤)
- ・ショキニー250グラム
(プロモブチド24.0%・ペントキサゾン6.0%剤)
- ・バイエル イノーバDX1キロ粒剤51
(ダイムロン4.5%・フェントラザミド2.0%・プロモブチド7.5%・
ベンスルフロンメチル0.51%粒剤)
- ・トップガン250グラム
(ピリミノバックメチル1.8%・プロモブチド36.0%・ベンスルフロ
ンメチル3.0%・ペントキサゾン8.0%剤)
- ・トップガンL250グラム
(ピリミノバックメチル1.8%・プロモブチド36.0%・ベンスルフロ
ンメチル2.0%・ペントキサゾン8.0%剤)
- ・クサトリーDXジャンボL
(フェントラザミド7.5%・プロモブチド15.0%・ベンスルフロンメ
チル1.27%粒剤)
- ・クサトッタ1キロ粒剤
(ジメタメトリン0.60%・ピラゾレート12.0%・プレチラクロール
4.5%・プロモブチド6.0%粒剤)
- ・クサトッタ粒剤
(ジメタメトリン0.20%・ピラゾレート4.0%・プレチラクロール
1.5%・プロモブチド2.0%粒剤)

- ・トップガンG T 1 キロ粒剤 7.5
(ピリミノバックメチル0.45%・プロモブチド9.0%・ベンスルフロンメチル0.75%・ペントキサゾン2.0%粒剤)
- ・トップガンG T 1 キロ粒剤 5.1
(ピリミノバックメチル0.45%・プロモブチド9.0%・ベンスルフロンメチル0.51%・ペントキサゾン2.0%粒剤)
- ・トップガンジャンボ
(ピリミノバックメチル1.8%・プロモブチド36.0%・ベンスルフロンメチル3.0%・ペントキサゾン8.0%粒剤)
- ・トップガンL ジャンボ
(ピリミノバックメチル1.8%・プロモブチド36.0%・ベンスルフロンメチル2.0%・ペントキサゾン8.0%粒剤)
- ・バイエルイノーバDXアップ 1 キロ粒剤 5.1
(ダイムロン4.5%・フェントラザミド3.0%・プロモブチド9.0%・ベンスルフロンメチル0.51%粒剤)
- ・ドニチS 1 キロ粒剤
(イマゾスルフロン0.90%・フェントラザミド3.0%・プロモブチド9.0%粒剤)
- ・ヨシキタ 1 キロ粒剤
(イマゾスルフロン0.90%・プロモブチド9.0%・ペントキサゾン3.9%粒剤)
- ・ヨシキタフロアブル
(イマゾスルフロン1.7%・プロモブチド16.3%・ペントキサゾン7.0%水和剤)
- ・日農イッポン 1 キロ粒剤 7.5
(ピラクロニル2.0%・プロモブチド9.0%・ベンスルフロンメチル0.75%粒剤)
- ・日農イッポンフロアブル
(ピラクロニル4.0%・プロモブチド18.0%・ベンスルフロンメチル1.4%水和剤)
- ・バッチリ 1 キロ粒剤
(イマゾスルフロン0.90%・ピラクロニル2.0%・プロモブチド9.0%粒剤)
- ・バッチリフロアブル
(イマゾスルフロン1.7%・ピラクロニル3.7%・プロモブチド16.3%水和剤)

- ・クサオウジHジャンボ
(フェントラザミド7.5%・プロモブチド15.0%・ベンスルフロンメチル1.87%粒剤)
- ・クサオウジ1キロ粒剤75
(フェントラザミド3.0%・プロモブチド6.0%・ベンスルフロンメチル0.75%粒剤)
- ・バッチャリジャンボ
(イマゾスルフロン2.25%・ピラクロニル5.0%・プロモブチド22.5%粒剤)
- ・ヨシキタジャンボ
(イマゾスルフロン2.25%・プロモブチド22.5%・ペントキサゾン9.75%粒剤)
- ・日農イッポンジャンボ
(ピラクロニル4.0%・プロモブチド18.0%・ベンスルフロンメチル1.5%粒剤)
- ・M I Cスラッシュヤ粒剤
(ジメタメトリン0.20%・ピラゾレート4.0%・プレチラクロール1.5%・プロモブチド2.0%粒剤)
- ・日農イッポンD 1キロ粒剤51
(ダイムロン4.0%・ピラクロニル2.0%・プロモブチド6.0%・ベンスルフロンメチル0.51%粒剤)
- ・M I CクサトリーDX 1キロ粒剤51
(フェントラザミド3.0%・プロモブチド6.0%・ベンスルフロンメチル0.51%粒剤)
- ・M I Cスラッシュヤ1キロ粒剤
(ジメタメトリン0.60%・ピラゾレート12.0%・プレチラクロール4.5%・プロモブチド6.0%粒剤)
- ・M I CクサトリーDXジャンボL
(フェントラザミド7.5%・プロモブチド15.0%・ベンスルフロンメチル1.27%粒剤)
- ・ゴウワンD Lジャンボ
(オキサジクロメホン0.86%・クロメプロップ4.3%・ダイムロン6.4%・プロモブチド8.6%・ベンスルフロンメチル0.73%粒剤)
- ・ショウリョクS粒剤
(カルタップ5.3%・イマゾスルフロン0.30%・カフェンストロール0.70%・ダイムロン1.7%・プロモブチド3.0%粒剤)

- ・オサキニ 1 キロ粒剤
(イマゾスルフロン0.90%・ピリミノバックメチル0.60%・プロモブチド9.0%粒剤)
- ・ゼータファイヤフロアブル
(プロピリスルフロン1.7%・プロモブチド16.8%水和剤)
- ・ゼータファイヤジャンボ
(プロピリスルフロン2.25%・プロモブチド22.5%粒剤)
- ・ゼータファイヤ 1 キロ粒剤
(プロピリスルフロン0.90%・プロモブチド9.0%粒剤)
- ・ウィナー 1 キロ粒剤 75
(イプフェンカルバゾン2.5%・プロモブチド9.0%・ベンスルフロンメチル0.75%粒剤)
- ・ウィナー 1 キロ粒剤 51
(イプフェンカルバゾン2.5%・プロモブチド9.0%・ベンスルフロンメチル0.51%粒剤)
- ・ウィナージャンボ
(イプフェンカルバゾン5.0%・プロモブチド18.0%・ベンスルフロンメチル1.5%粒剤)
- ・ウィナーフロアブル
(イプフェンカルバゾン5.0%・プロモブチド18.0%・ベンスルフロンメチル1.02%粒剤)
- ・ウィナーフロアブル
(イプフェンカルバゾン5.0%・プロモブチド18.0%・ベンスルフロンメチル1.4%水和剤)
- ・ウィナーフロアブル
(イプフェンカルバゾン5.0%・プロモブチド18.0%・ベンスルフロンメチル1.0%水和剤)
- ・ゴエモン 1 キロ粒剤
(イプフェンカルバゾン2.5%・イマゾスルフロン0.90%・プロモブチド9.0%粒剤)
- ・バッチャリ LX フロアブル
(イマゾスルフロン1.7%・オキサジクロメホン0.56%・ピラクロニル3.7%・プロモブチド16.3%水和剤)
- ・バッチャリ LX ジャンボ
(イマゾスルフロン2.25%・オキサジクロメホン0.75%・ピラクロニル5.0%・プロモブチド22.5%粒剤)

- ・バッチャリ L X 1 キロ粒剤
(イマゾスルフロン0.90%・オキサジクロメホン0.40%・ピラクロニル2.0%・プロモブチド9.0%粒剤)
- ・クミスター 1 キロ粒剤 5 1
(フェノキサスルホン2.0%・プロモブチド9.0%・ベンスルフロンメチル0.51%粒剤)
- ・アルファーブロ 1 キロ粒剤 5 1
(フェノキサスルホン2.0%・プロモブチド9.0%・ベンスルフロンメチル0.51%粒剤)
- ・クミスター 1 キロ粒剤 7 5
(フェノキサスルホン2.0%・プロモブチド9.0%・ベンスルフロンメチル0.75%粒剤)
- ・アルファーブロ 1 キロ粒剤 7 5
(フェノキサスルホン2.0%・プロモブチド9.0%・ベンスルフロンメチル0.75%粒剤)
- ・アルファーブロ H ジャンボ
(フェノキサスルホン8.0%・プロモブチド36.0%・ベンスルフロンメチル3.0%剤)
- ・アルファーブロ H フロアブル
(フェノキサスルホン3.7%・プロモブチド16.5%・ベンスルフロンメチル1.4%水和剤)
- ・アルファーブロ L フロアブル
(フェノキサスルホン3.7%・プロモブチド16.5%・ベンスルフロンメチル0.90%水和剤)
- ・ゴエモンフロアブル
(イップフェンカルバゾン4.6%・イマゾスルフロン1.7%・プロモブチド16.7%水和剤)
- ・デルタアタックフロアブル
(イマゾスルフロン1.7%・オキサジクロメホン0.56%・ピラクロニル3.7%・プロモブチド16.3%水和剤)
- ・デルタアタックジャンボ
(イマゾスルフロン2.25%・オキサジクロメホン0.75%・ピラクロニル5.0%・プロモブチド22.5%粒剤)
- ・デルタアタック 1 キロ粒剤
(イマゾスルフロン0.90%・オキサジクロメホン0.40%・ピラクロニル2.0%・プロモブチド9.0%粒剤)

- ・アッパレZ 1キロ粒剤
(ピラクロニル2.0%・プロピリスルフロン0.90%・プロモブチド9.0%粒剤)
- ・アッパレZ ジャンボ
(ピラクロニル5.0%・プロピリスルフロン2.25%・プロモブチド22.5%粒剤)
- ・ゼータタイガーフロアブル
(プロピリスルフロン1.7%・プロモブチド16.8%・ペントキサゾン3.7%水和剤)
- ・ゴエモンジャンボ
(イップフェンカルバゾン8.33%・イマゾスルフロン3.0%・プロモブチド30.0%粒剤)
- ・ゼータタイガー1キロ粒剤
(プロピリスルフロン0.90%・プロモブチド9.0%・ペントキサゾン2.0%粒剤)
- ・ゼータタイガージャンボ
(プロピリスルフロン3.0%・プロモブチド30.0%・ペントキサゾン6.67%粒剤)
- ・アッパレZ フロアブル
(ピラクロニル3.7%・プロピリスルフロン1.7%・プロモブチド16.8%水和剤)
- ・イネショット1キロ粒剤
(プロモブチド9.0%・ペントキサゾン2.0%粒剤)
- ・ドラゴンホークZ フロアブル
(プロピリスルフロン1.7%・プロモブチド16.8%・ペントキサゾン3.7%水和剤)
- ・ドラゴンホークZ 1キロ粒剤
(プロピリスルフロン0.90%・プロモブチド9.0%・ペントキサゾン2.0%粒剤)
- ・ドラゴンホークZ ジャンボ
(プロピリスルフロン3.0%・プロモブチド30.0%・ペントキサゾン6.67%粒剤)
- ・ビンワン1キロ粒剤
(オキサジクロメホン0.80%・テフリルトリオン3.0%・プロモブチド9.0%粒剤)
- ・ビンワンフロアブル
(オキサジクロメホン1.1%・テフリルトリオン5.5%・プロモブチド16.5%水和剤)

- ・ビンワンジャンボ
(オキサジクロメホン1.2%・テフリルトリオン6.0%・プロモブチド18.0%粒剤)
- ・ザークDXジャンボH
(フェントラザミド7.5%・プロモブチド15.0%・ベンスルフロンメチル1.87%粒剤)
- ・ザークDX1キロ粒剤75
(フェントラザミド3.0%・プロモブチド6.0%・ベンスルフロンメチル0.75%粒剤)
- ・ザークDX1キロ粒剤51
(フェントラザミド3.0%・プロモブチド6.0%・ベンスルフロンメチル0.51%粒剤)
- ・ザークDXジャンボL
(フェントラザミド7.5%・プロモブチド15.0%・ベンスルフロンメチル1.27%粒剤)
- ・アルファープロH豆つぶ250
(フェノキサスルホン8.0%・プロモブチド36.0%・ベンスルフロンメチル3.0%剤)
- ・バッチャリ400FG
(イマゾスルフロン2.25%・ピラクロニル5.0%・プロモブチド22.5%粒剤)
- ・ゼータタイガー300FG
(プロピリスルフロン3.0%・プロモブチド30.0%・ペントキサゾン6.67%粒剤)
- ・ドラゴンホークZ300FG
(プロピリスルフロン3.0%・プロモブチド30.0%・ペントキサゾン6.67%粒剤)
- ・バッチャリLX400FG
(イマゾスルフロン2.25%・オキサジクロメホン0.75%・ピラクロニル5.0%・プロモブチド22.5%粒剤)
- ・デルタアタック400FG
(イマゾスルフロン2.25%・オキサジクロメホン0.75%・ピラクロニル5.0%・プロモブチド22.5%粒剤)
- ・アッパレZ400FG
(ピラクロニル5.0%・プロピリスルフロン2.25%・プロモブチド22.5%粒剤)

- ・ニマイメZフロアブル
(プロピリスルフロン1.7%・ブロモブチド16.8%・ペントキサゾン3.7%水和剤)
- ・ニマイメZ 1キロ粒剤
(プロピリスルフロン0.90%・ブロモブチド9.0%・ペントキサゾン2.0%粒剤)
- ・ニマイメZ ジャンボ
(プロピリスルフロン3.0%・ブロモブチド30.0%・ペントキサゾン6.67%粒剤)
- ・ウイニングラン 1キロ粒剤
(イップフェンカルバゾン2.5%・ブロモブチド9.0%・ベンスルフロンメチル0.75%粒剤)
- ・ショキニー 1キロ粒剤
(ブロモブチド9.0%・ペントキサゾン2.0%粒剤)
- ・ウイニングランフロアブル
(イップフェンカルバゾン5.0%・ブロモブチド18.0%・ベンスルフロンメチル1.4%水和剤)
- ・ウイニングランジャンボ
(イップフェンカルバゾン5.0%・ブロモブチド18.0%・ベンスルフロンメチル1.5%粒剤)
- ・トップガンR 1キロ粒剤
(ピリミノバックメチル0.45%・ブロモブチド9.0%・ベンスルフロンメチル0.75%・ペントキサゾン2.0%粒剤)
- ・トップガンR 豆つぶ250
(ピリミノバックメチル1.8%・ブロモブチド36.0%・ベンスルフロンメチル3.0%・ペントキサゾン8.0%剤)
- ・トップガンR ジャンボ
(ピリミノバックメチル1.8%・ブロモブチド36.0%・ベンスルフロンメチル3.0%・ペントキサゾン8.0%剤)
- ・トップガンR フロアブル
(ピリミノバックメチル0.83%・ブロモブチド17.0%・ベンスルフロンメチル1.3%・ペントキサゾン2.8%水和剤)
- ・シンズイZ 1キロ粒剤
(オキサジクロメホン0.80%・フェンキノトリオン3.0%・プロピリスルフロン0.90%・ブロモブチド9.0%粒剤)
- ・シンズイZ 豆つぶ250
(オキサジクロメホン2.4%・フェンキノトリオン12.0%・プロピリスルフロン3.6%・ブロモブチド36.0%剤)

- ・シンズイ Z ジャンボ
(オキサジクロメホン2.4%・フェンキノトリオン12.0%・プロピリスルフロン3.6%・ブロモブチド36.0%剤)
- ・シンズイ Z フロアブル
(オキサジクロメホン1.1%・フェンキノトリオン5.4%・プロピリスルフロン1.6%・ブロモブチド16.1%水和剤)
- ・サラブレッドGO 1キロ粒剤
(イマゾスルフロン0.90%・オキサジクロメホン0.60%・ピラクロニル1.0%・ブロモブチド9.0%粒剤)
- ・サラブレッドGO 400FG
(イマゾスルフロン2.25%・オキサジクロメホン1.5%・ピラクロニル2.5%・ブロモブチド22.5%粒剤)
- ・サラブレッドGO ジャンボ
(イマゾスルフロン2.25%・オキサジクロメホン1.5%・ピラクロニル2.5%・ブロモブチド22.5%粒剤)
- ・サラブレッドGO フロアブル
(イマゾスルフロン1.7%・オキサジクロメホン1.1%・ピラクロニル1.9%・ブロモブチド16.7%水和剤)
- ・イグザクトQED ジャンボ
(フェントラザミド7.5%・ブロモブチド15.0%・ベンスルフロンメチル1.87%粒剤)
- ・イグザクトQED 1キロ粒剤
(フェントラザミド3.0%・ブロモブチド6.0%・ベンスルフロンメチル0.75%粒剤)
- ・イッセン1キロ粒剤
(ピリミスルファン0.75%・フェントラザミド3.0%・ブロモブチド9.0%粒剤)
- ・イッセン豆つぶ250
(ピリミスルファン3.0%・フェントラザミド12.0%・ブロモブチド36.0%剤)
- ・イッセンジャンボ
(ピリミスルファン3.0%・フェントラザミド12.0%・ブロモブチド36.0%剤)
- ・レオゼータ1キロ粒剤
(フェンキノトリオン3.0%・プロピリスルフロン0.90%・ブロモブチド9.0%粒剤)

- ・レオゼータジャンボ
(フェンキノトリオン10.0%・プロピリスルフロン3.0%・プロモブチド30.0%粒剤)
- ・レオゼータ300FG
(フェンキノトリオン10.0%・プロピリスルフロン3.0%・プロモブチド30.0%粒剤)
- ・レオゼータフロアブル
(フェンキノトリオン5.6%・プロピリスルフロン1.7%・プロモブチド16.7%水和剤)
- ・レンバ楽粒
(オキサジクロメホン2.4%・プロモブチド36.0%・フルビラウキシフェンベンジル1.8%粒剤)
- ・ギガゼータ1キロ粒剤
(ピラクロニル2.0%・フェンキノトリオン3.0%・プロピリスルフロン0.90%・プロモブチド9.0%粒剤)
- ・ギガゼータフロアブル
(ピラクロニル3.7%・フェンキノトリオン5.5%・プロピリスルフロン1.7%・プロモブチド16.5%水和剤)
- ・ヒッサツ1キロ粒剤
(イマゾスルフロン0.90%・ピラクロニル2.0%・プロモブチド15.0%粒剤)
- ・ヒッサツ400FG
(イマゾスルフロン2.3%・ピラクロニル5.0%・プロモブチド37.5%粒剤)
- ・ヒッサツジャンボ
(イマゾスルフロン2.3%・ピラクロニル5.0%・プロモブチド37.5%粒剤)
- ・ヒッサツフロアブル
(イマゾスルフロン1.6%・ピラクロニル3.6%・プロモブチド27.0%水和剤)
- ・のぞみ1キロ粒剤
(イマゾスルフロン0.90%・シクロピラニル0.90%・プロモブチド9.0%粒剤)
- ・のぞみフロアブル
(イマゾスルフロン1.7%・シクロピラニル1.7%・プロモブチド16.8%水和剤)

- ・のぞみジャンボ
(イマズスルフロン3.6%・シクロピラニル3.6%・プロモブチド36.0%粒剤)
- ・のぞみ250FG
(イマズスルフロン3.6%・シクロピラニル3.6%・プロモブチド36.0%粒剤)
- ・ほむらZ1キロ粒剤
(シクロピラニル0.90%・プロピリスルフロン0.90%・プロモブチド9.0%粒剤)
- ・ゼータザウルス1キロ粒剤
(シクロピラニル0.90%・プロピリスルフロン0.90%・プロモブチド9.0%粒剤)
- ・ほむらZフロアブル
(シクロピラニル1.7%・プロピリスルフロン1.7%・プロモブチド16.8%水和剤)
- ・ゼータザウルスフロアブル
(シクロピラニル1.7%・プロピリスルフロン1.7%・プロモブチド16.8%水和剤)
- ・ほむらZジャンボ
(シクロピラニル3.6%・プロピリスルフロン3.6%・プロモブチド36.0%粒剤)
- ・ゼータザウルスジャンボ
(シクロピラニル3.6%・プロピリスルフロン3.6%・プロモブチド36.0%)
- ・ほむらZ250FG
(シクロピラニル3.6%・プロピリスルフロン3.6%・プロモブチド36.0%粒剤)
- ・ゼータザウルス250FG
(シクロピラニル3.6%・プロピリスルフロン3.6%・プロモブチド36.0%粒剤)

5.2 適用作物 移植水稻、直播水稻

5.3 使用方法 湛水散布、無人航空機による散布等

II. ミツバチに対する安全性に係る試験の概要

1. ミツバチに対する安全性に係る試験

プロモブチドのミツバチに対する安全性に係る試験を表1に示す。

表1：ミツバチに対する安全性に係る試験

試験の種類	評価段階	試験数	公表文献数*
成虫単回接触毒性試験	第1段階	1	0
成虫単回経口毒性試験		1	0
成虫反復経口毒性試験		0	0
幼虫経口毒性試験		0	0
花粉・花蜜残留試験		0	
蜂群への影響試験	第2段階	0	

* (参考) 公表文献の検索結果 (資料3)

(生活環境動植物及び家畜に対する毒性に関する分野)

データベース名: ①Web of Science (Core Collection)

②J-STAGE

検索対象期間: ①2008年4月1日から2023年3月31日

②2008から2023年

「生活環境動植物及び家畜に対する毒性に関する分野」に該当する文献数	(1)	(2)
6	4	

【表題と概要に基づく適合性の有無の評価】

明らかに評価の目的と適合しない文献の除外

「適合性なし」以外の文献数	(1)	(2)
2	4	

【全文に基づく適合性の有無の評価】

評価の目的と適合しない文献の除外

「適合性あり」の文献数	(1)	(2)
2	3	

【適合性の分類】

分類基準を設定して全文をレビューし、評価目的への適合性を
a、b、c の3つの区分に分類

区分a；リスク評価パラメーターを設定又は見直すために利用可能と判断される文献
区分b；リスク評価パラメーターを設定する際の補足データとして利用が可能と想定される文献
区分c；a又はbに分類されない文献

「区分a~c」に分類された文献数	c
(1)	(2)
2	3

試験生物として「セイヨウミツバチ (*Apis mellifera*)」
を用いている

審議の対象とする文献数	(1)	(2)
0	0	

※公表文献に関する情報募集（令和6年10月1日～10月30日）で寄せられた情報はない。

2. ミツバチ個体への毒性（毒性指標）

2.1 成虫単回接触毒性試験

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回接触毒性試験が実施され、48 h LD₅₀ は >100 µg ai/bee であった。

表 2：単回接触毒性試験結果（資料 1、2021 年）

被験物質	原体						
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(<i>Apis mellifera</i>)/ 3反復、10頭/区						
準拠ガイドライン	OECD TG214						
試験期間	48 h						
投与溶媒(投与液量)	DMF : アセトン 1:1溶液(1 µL)						
暴露量 (設定量に基づく有効成分換算値) (µg ai /bee)	対照区 (水) (死亡率 %)	対照区 (溶媒) (死亡率 %)	6.3	12.5	25	50	100
死亡数/供試生物数 (48 h)	0/30 (0 %)	0/30 (0 %)	0/30	0/30	0/30	0/30	0/30
観察された行動異常	興奮状態						
LD ₅₀ (µg ai /bee) (48 h)	>100						

2.2 成虫単回経口毒性試験

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回経口毒性試験が実施され、48 h LD₅₀ は >60 µg ai/bee であった。

表 3：単回経口毒性試験結果（資料 2、2006 年）

被験物質	原体		
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(<i>Apis mellifera</i>)/ 3反復、10頭/区		
準拠ガイドライン	OECD TG213		
試験期間	48 h		
投与溶液(投与液量)	50 %ショ糖溶液(400 µL/区)		
助剤(濃度%)	DMF(1 %)		
暴露量 (設定量に基づく有効成分換算値) (µg ai/bee)	対照区 (無処理) (死亡率 %)	対照区 (DMF) (死亡率 %)	60
死亡数/供試生物数 (48 h)	0/30 (0 %)	0/30 (0 %)	0/30
観察された行動異常	無気力		
LD ₅₀ (µg ai/bee) (48 h)	>60		

2.3 成虫反復経口毒性試験

該当なし

2.4 幼虫経口毒性試験

該当なし

3. 花粉・花蜜残留試験

該当なし

4. 蜂群への影響試験

該当なし

III. 毒性指標

1. 毒性試験の結果概要

毒性試験の結果概要を表4に示す。

表4：各試験の毒性値一覧

毒性試験	毒性値	
	エンド・ポンクト	試験
成虫単回接触毒性	48 h LD ₅₀ (μg ai/bee)	>100
成虫単回経口毒性	48 h LD ₅₀ (μg ai/bee)	>60

2. 毒性指標値

プロモブチドのミツバチへの影響評価に用いる毒性指標値は以下のとおりとした(表5)。

(1) 成虫単回接触毒性

48 h LD₅₀ 値 (>100 μg ai/bee) を採用し、毒性指標値を 100 μg ai/bee とした。

(2) 成虫単回経口毒性

48 h LD₅₀ 値 (>60 μg ai/bee) を採用し、毒性指標値を 60 μg ai/bee とした。

表5：プロモブチドのミツバチへの影響評価に用いる毒性指標値

生育段階	毒性試験の種類	毒性指標値(単位)	
成虫	単回接触毒性	48 h LD ₅₀ (μg ai/bee)	100
	単回経口毒性	48 h LD ₅₀ (μg ai/bee)	60

3. 毒性の強さから付される注意事項

成虫単回接触毒性及び成虫単回経口毒性共に LD₅₀ は 11 μg/bee 以上であったため、注意事項は要しない。

IV. 暴露量の推計

本剤は、昆虫成長制御剤に該当せず、成虫の急性接触毒性(単回接触毒性試験の LD₅₀ 値)が 11 μg/bee 以上であること、及び成虫の急性接触毒性以外の毒性値が超値(成虫単回経口毒性試験 LD₅₀ : >60 μg/bee) であることから、1 巡目の再評価において、リスク評価を行う対象とはしない。そのため、暴露量の推計は行わない。

V. 評価結果

プロモブチドは、申請された使用方法に基づき使用される限りにおいて、ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはないと考えられる。

評価資料

資料番号	報告年	題名、出典(試験施設以外の場合) 試験施設、報告書番号 GLP適合状況(必要な場合)、公表の有無
1	2021	プロモブチド原体のセイヨウミツバチ(<i>Apis mellifera L.</i>)成虫を用いる急性接触毒性試験 一般財団法人生物科学安全研究所 Report No.: CCW-0032J GLP、未公表
2	2006	Bromobutide Technical Grade - Acute Oral Toxicity Test with the Honey Bee (<i>Apis mellifera</i>) Springborn Smithers Laboratories Report No.: CCW-0015 GLP、未公表
3	2023 (2024修正)	農薬取締法に基づく農薬有効成分の再評価制度に係る公表文献調査報告書 有効成分名：プロモブチド 公表

評価資料（公表文献）

該当なし